

世界文化遺産の保全のために！

駿馬北小学校の児童は、毎月第3日曜日に、世界文化遺産「宮原坑」において子どもボランティアガイドを行っています。また、宮原坑では、「やぐらん煎餅」を販売しております。このたび、収益金を宮原坑をはじめとする世界文化遺産などの環境保全のために使っていただくために、大牟田市に寄付しました。

寄付は、今回で4回目となり、世界文化遺産の環境保全等に活用されています。駿馬北小学校のこの活動は、世界文化遺産を生かした持続可能な社会づくりの取組として、国内でも注目されています。



▲中尾市長に収益金を寄贈する児童

郷土 大牟田とつなぐ読書活動



▲カルタックス内の特設コーナー

倉永小学校では、ESDの視点を取り入れた図書館教育を推進しています。今回、5年生が、大牟田出身の絵詞(えことば)作家「内田麟太郎さん」の生い立ちや作品について調べたことを模造紙にまとめました。また、内田麟太郎さんの作品のポップも作成し、展示しています。3月末まで、「カルタックスおおむた」にて、展示されています。ぜひご覧ください。

大牟田市教育研究所でのESDに係る研究

大牟田市教育研究所では、ESDに係る研究を進めています。今年度までの3年間、宮原中学校の高倉洋美教諭が、世界遺産学習を中心とした研究を行いました。本年度は大牟田市教育委員会が作成した中学校版世界遺産学習資料集を活用した実践事例を紹介しています。大牟田市のESDの特色でもある世界遺産学習。市内の中学校の多くが、大牟田の世界文化遺産にふれ、京都や奈良等でテーマを定めた自主研修を行っています。こうした学びが、「世界遺産についての学習・世界遺産のための学習・世界遺産を通しての学習」につながっています。これらの成果は、12月に行われたユネスコスクール全国大会の公開授業においても披露されました。



▲ユネスコの方に宮原坑を紹介する生徒

大牟田市立三池小学校の実践

「三池校区の環境について調べよう」を通して

三池校区は、三池街道沿いに発達し、多くの史跡や文化財の残る旧市街地と三池山をはじめとする豊かな自然が共存しています。このふるさと三池の豊かな自然を守り残していくために、三池小学校では、5年生が校区を流れる堂面川を対象にして環境について調べています。今年度は、水質により住む生物が違うことから実際に採取して生き物の種類や数を調べたり、透明度を測ったり、パックテストで水の汚れを測定したりしました。これらを下流域と比較することで、三池の自然のよさを知るとともに、この自然をいつまでも守っていく必要性に気づいていきました。そこで、自分たちができることを考えたり、新聞にまとめたりして、他の学年の児童に広めました。



大牟田市立松原中学校の実践

国際理解教育講演会 「幸せの形」バヌアツを通して

JICA国際協力推進員の森川大毅さんを講師に招き、「幸せの形」という視点から国際理解を深める講演会を実施しました。バヌアツ共和国は2006年イギリスのシンクタンクが「世界一幸福度指数の高い国」に選ばれました。(日本は、178カ国中95位)この国は、電気も満足に普及していません。森川さんは、「首都のあるエファテ島以外は、舗装道路をみることがない。しかし、気候は温暖湿潤、豊かな自然に恵まれて食料の心配がありません。飢餓がなければ幸せです。」と話されました。生徒の感想を紹介します。「バヌアツ共和国は幸福度が高く、世界一幸せな国と言われていることを今日、初めて知りました。バヌアツは、先進国のように発達していないのに、どうしてなんだろうと思いました。

あまり発達していないからこそ、住民同士で協力して暮らしていくことでコミュニケーションがとれて、みんなが仲良く、幸せを感じる人が多いんだろうと思いました。私もそのように喜びや幸せを感じられたらいいなと思いました」

